

医学部保健学科

学位プログラム： 看護学

授与する学位： 学士（看護学）

教育目標

大阪大学および医学部保健学科の教育目標のもと、学位プログラム「看護学」では、高度な専門性を持ち、看護学に関する深い学識と先進医療のあらゆる分野に対応できる力を身につけ、高い倫理観と豊かな人間性を備え、医療の国際展開を推進し、教育・研究・実践の場でリーダーシップを発揮して、看護学の発展に寄与する次のような能力を備えた人材育成を目指しています。

○高度な専門性と深い学識

- ・看護学の知識と技術を、演習を含む主体的学習を通して十分に習得させます。
- ・医学部附属病院等での実習を通して、社会・地域医療に貢献しつつ、高度先進医療・未来医療を発展させ得る高度な専門性を具体的に理解させます。

○教養

- ・高い倫理観と豊かな人間性を養うことを目指します。
- ・看護学を探究する学習を通して、人間を十分に知り、健康と環境の関係を理解し、対人コミュニケーションを適切にとるための教養を高めさせます。

○国際性

- ・語学力を基盤とし、看護学の国際展開に関わる多様な課題について考えることを通して、保健医療の課題をグローバルな視点で取らえられるようにさせます。

○デザイン力

- ・看護学の視点で豊かにデザインできる力をつけ、保健医療機関の看護の質を高め、行政や政府関連機関で保健医療施策を講じ、教育・研究機関においても将来先進的な活躍をする人材を育成することを目指します。

看護学の専門性に関して確固たる自信を持ち、国内外の教育・研究・実践の場で、専門性と語学力を基盤としたリーダーシップを発揮し、「人」に対して温かい目を持つ医療人を育成します。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学および医学部保健学科のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「看護学」では、国内外の研究・実践・教育の場で、専門性と語学力を基盤としたリーダーシップを発揮し、看護学の専門性に関して確固たる自信を持ち、人に対して温かい目を持つ医療人を育成するという教育目標に照らして、以下の目標を達成した学生に学士（看護学）を授与します。

○高度な専門性と深い学識

- ・看護学で求められる知識・技術を有している。
- ・医療分野の課題解決に向けて、修得した知識・技術を活用できる。

○教養

- ・高い倫理観を持ち、豊かな人間性を身につけている。
- ・健康と環境の関係を複眼的・俯瞰的に施行し、人類の文化・社会・自然に関連付けて他者に説明できる。

○国際性

- ・異なる言語・文化背景を考慮した、看護および保健医療のあり方について検討し提供できる。
- ・専門知識を活用しながら、言語・文化の相違を超えて交流し、看護および保健医療の課題をグローバルな視点で総合的に評価できる。

○デザインカ

- ・看護学と医療分野における新たな課題を発見し、解決の道筋を構想できる。
- ・看護学と医療分野のさまざまなニーズに対応するために、専門的知識と技能を生かしながら、様々な分野の人と協働できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学および医学部保健学科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「看護学」は、教養教育、専門教育、及び国際性の涵養に関する授業科目を体系的に編成し、講義、演習、実験・実習を効果的に組み合わせ、幅広い知識と教養、豊かな人間性、高い倫理観を身につけながら、看護学の理解を深め、理論と実践を科学的に追求し、看護学の研究を発展させ、かつ医療専門資格につながる授業を展開し、科目の特性に応じた評価方法により、学修成果を適正に判断します。

<教育課程編成の考え方>

看護学が取り組むべき課題は、すべての人々の健康であり、課題を解決するためには、高度で広範な知識と柔軟な対応力が必要となります。このため 1、2 年次の導入段階では、高度な専門教育と豊かな教養教育を、車の両輪のように展開させることで看護学と医療の理解を深め、さらなる主体的学習を促す編成となっています。そして、専門教育が進むにつれ、看護学の理論と実践を科学的に追求し、高度の専門知識・技術を総合的に教育・研究する教育課程となっています。

<学修内容及び学修方法>

国際性とデザイン力に関しては、専門教育・教養教育と並行しつつ、語学力とグローバルな視点を涵養する教育を通して、異なる言語や文化背景への理解を深め、看護学および保健医療のあり方についての検討を重ねていきます。そして 3、4 年次で看護の専門性をふまえた研究課題に各自が取り組むことを通して、看護学と医療分野における新たな課題を発見し、解決の道筋を構想していきます。また、外国人留学生との交流機会は、国際的視野が広がることにつながっています。

看護学は、医療の知識も基盤となる実践の科学であるため、学内での座学を中心とする講義科目、試行錯誤し、工夫を重ねつつ互いに学ぶ演習の科目に加え、実践の場での学習が必須となる実習科目を設けています。実際の医療の場で、様々な医療専門職が、それぞれの専門性を活かしてチームとして医療を提供し、医療の発展に貢献する姿を知ることによって、専門的知識と技能の重要性を再認識し、さらなる学修への動機づけを高めます。

<学修成果の評価方法>

学修の成果は、筆記試験、課題レポート、演習への参加状況、実習前後の課題達成と実習中の討議内容等で授業形式をふまえてシラバスの学習目標に沿って適正に評価します。また、学修したすべての知識を統合して新たな看護学の課題に取り組む特別研究は、論文として評価し、研究成果はプレゼンテーションによって共有します。

教育課程全体を通し、医療に携わるものとしての高い倫理観を持ち、看護学の発展に寄与して

人々の幸せに貢献するという使命感を自覚した、真の医療人を育成します。

